

# 1 アジア防災センターの概要

## 1 - 1 設立の経緯

アジア防災センターは、1998年7月30日に兵庫県神戸市に開設された。設立の経緯は以下の通りである。

### 1) 国際防災の10年

国連では1987年12月の第42回総会において、90年代を「国際防災の10年」とし、国際協調行動を通じ、全世界、特に開発途上国における自然災害による被害の大幅な軽減を図ろうとする決議案が採択された。

### 2) 国際防災の10年世界会議の開催

1994年5月に、国際防災の10年の中間レビューと将来に向けた行動計画の立案を目的とする「国際防災の10年世界会議」が、国連の主催により横浜市で開催された。この会議では、災害の形態や防災対策に共通点を有する地域レベルにおける国際協力の重要性などを指摘した「より安全な世界に向けての横浜戦略」が採択され、これに則って世界中で国際防災の10年に関する活動が進められることとなった。

### 3) アジア防災政策会議の開催

横浜戦略における地域レベルの協力の第1歩として、アジア地域を中心とする28カ国の防災関係閣僚等の参加を得て、「アジア防災政策会議」が1995年12月に国際防災の10年推進本部の主催により神戸で開催された。この会議では、アジア地域における防災センター機能を有するシステムの創設の検討開始を日本より提案するなど、国際防災協力の推進に向けた「神戸防災宣言」が採択された。

### 4) アジア防災専門家会議の開催

「神戸防災宣言」に盛り込まれた、「アジア地域における防災センター機能を有するシステム」の創設を議題にした「アジア防災専門家会議」が、1996年10月に30カ国の防災担当部局長等の参加を得て、国連防災の10年推進本部の主催により東京で開催された。この会議では、同システムの活動を推進するための事務局として「アジア地域防災センター（仮称）」を置くことについて検討を進めることとなった。

### 5) アジア防災協力推進会合

「アジア地域における防災センター機能を有するシステム」の具体的な活動内容等について、23カ国の防災担当部局長等の参加による「アジア防災協力推進会合」が1997年6月に国連防災の10年推進本部の主催により東京で開催され、同システムの事務局として「アジア防災センター」を日本に設置することが提案された。

## 6) アジア防災センターの設立

このような経緯を経て、日本政府でアジア防災センターの組織や運営経費等について関係各国と協議を重ねた結果、アジア防災センターは地元兵庫県の協力も得て、1998年7月30日に兵庫県神戸市に設立された。

## 1 - 2 組織及び体制

アジア防災センターは当初 22 のメンバー国、4 のアドバイザー国及び 1 オブザーバーから構成されていたが、2000 年 8 月にアルメニアが加盟し、現在メンバー国は 23 カ国となっている（具体的には、表 2-1-1-1、表 2-1-1-2、表 2-1-1-3 を参照）。

日本国政府内閣府および国土交通省共管の（財）都市防災研究所の付置機関として設置されている。

## 1 - 3 活動方針とこれまでの活動内容

### 1 - 3 - 1 活動方針

アジア防災センターは、アジア地域における防災関連情報の共有を目的とする防災情報センターとしての機能を強く持つ組織である。その基本的な機能を踏まえて、次に挙げる 5 つの活動事項が、過去の国際会議を通じて与えられている。

- 防災情報の収集・提供
- 防災協力の推進に関する調査
- 災害発生時の各国の緊急援助等に関する情報の収集
- 防災に関する知識の普及、意識の向上、資料の企画
- 防災に関する教育・訓練プログラムの企画

アジア防災センターでは、当初の基本的な活動方針を以下の通りとしている。

#### (1) 防災情報の共有 (Information Sharing)

アジア防災センターウェブでの情報発信

- 災害情報
- 防災情報
- 防災啓蒙、防災教育、防災訓練にかかる情報
- 防災技術にかかる情報
- 防災分野における人材情報

防災にかかる国際協力を進めるために、メンバー国の防災担当者と定期的な会合を開催し、信頼関係の醸成を図る

メンバー国からの研究者を毎年一定規模で受け入れる

(2) メンバー国の防災能力向上(Capacity Building)

メンバー国の防災力向上のため、普及啓発、教育訓練等をメンバー国や国際機関などとともに実施する

(3) 協力プロジェクト(Cooperative Project)

メンバー国とともに防災力向上のための共同プロジェクトを実施する。

### 1 - 3 - 2 これまでの活動内容

アジア地域の防災情報センターとして幅広く的確に防災情報を得るためには、まずは、組織の存在を広くアピールし、関係国及び関係機関との協力関係を樹立していくことが、何にもまして重要である。

そこで、関係する国際会議などへの出席、関係国への訪問調査、関係機関からの視察・研修の受入れなどを積極的に行うとともに、1999年から毎年、メンバー国、アドバイザー国や国連等の国際機関を招聘して、アジア防災センター国際会議を開催している。今年度は、メンバー国のインド政府と共催で2002年1月にインドデリー市において「第4回アジア防災センター国際会議」を開催した(後述)。

また初年度から開始した世界の災害情報等の情報提供体制を一層強化するとともに、これまでに開催した専門家会議等で入手したメンバー国の情報等をもとに、各国の防災体制等のデータベースを構築し、順次情報提供を開始した(後述)。

このような活動を通じて、防災分野におけるアジア防災センターの知名度が国際的にも徐々に向上し、1999年7月ジュネーブで開催された国際防災の10年の締めくくりとなる防災会議(ワグラム・フォーラム)では、この10年間のサクセス・ストーリー(成功事例)10題の一つに選ばれ、130カ国700人の参加者に活動内容を紹介する機会を得た。

また、2000年2月から、国連人道問題調整事務所(OCHA)と国際防災共同プロジェクトを立ち上げ、防災分野や災害対応分野における連携協力体制の整備を通じて、アジア地域における災害対応力の強化も図ることとなった。これにより、アジア防災センター内にOCHAアジア災害対応ユニット(OCHAアジアユニット)が開設され、災害対応アドバイザーが配置され、それぞれが有する情報を共有し活用しながら、密接な連携の元に、活動を進めている。また、2001年8月には人道及び災害情報を世界にインターネットを通して提供する国連災害情報事務所(OCHA Relief Web)を開設し、アジア太平洋地域での情報交換を促進することにより、災害防止、緊急援助・人道支援を強化に寄与している。

さらに、GDIN(Global Disaster Information Network)国際会合にも 2000 年 4 月のアンカラ会合から参加している。2001 年 3 月のキャンベラ会議では世界中で蓄積されている災害情報を有効に活用するため、災害ごとに世界統一の番号を付ける災害統一番号 (GLIDE) を提案し、国連災害情報事務所、ベルギー・アントワープ大学災害疫病学研究所などと共同で開発を行うなど、世界的な防災情報共有化の動きに貢献し、活動はますます広がりつつある。

また、2001 年 7 月に国連人道問題調整事務所 (OCHA) 神戸と共催した「自然災害分野地域協力会議」(ネパールカトマンズ)において「総合的な災害リスクマネジメント: Total Disaster Risk Management」の重要性を提唱し、災害予防から災害対応まで、あるいは中央政府からコミュニティレベルにいたる総合的なリスク管理の必要性について普及啓発を進めており、「アジア防災センター国際会議 (メンバー国会議)」(2002.1 インド)、「アジア地域 NGO シンポジウム」(2002.2 神戸)などで参加者から高い評価を受け、さらなる普及啓発が望まれている。

表 1-3-2-1 <これまでの主な活動記録>

|               |   |
|---------------|---|
| 98.7.30       | 開所式典開催 会場: IHD ビル 3 階参加者数: 約 150 人  |
| 98.9.1        | 世界災害速報提供開始<br><2001.3.25 までに 156 件の災害速報を発信>   |
| 98.10~        | メバ-国調査(韓国、フィリピン、マレーシア、シンガポール、バングラデシュ、ベトナム、タイ、ロシア、インドネシア、パプアニューギニア、中国)                           |
| 98.11.7       | バングラデシュ外務大臣アブドゥス・サマド・アザド氏来訪   |
| 98.11.9~11.13 | WHO 西太平洋地区・緊急事態対応力強化のための国際ワークショップ (マニラ) 出席<br><ADRC の開設について紹介>                                  |
| 98.12.1       | 防災人材データベース運用開始<51 ヶ国約 1,400 人登録済み>  |
| 99.2.15       | ADRC 国際シンポジウム開催 会場: 兵庫県公館<br><参加者数: 21 ヶ国約 250 名 (一般参加を含む)>                                     |
| 99.2.16~2.18  | ADRC 専門家会議開催 会場: IHD ビル<br><参加者数: 21 ヶ国 1 機関 30 名>  |
| 99.2.23~2.26  | ESCAP-IDNDR Regional Meeting for Asia(バンコク)出席<br><ADRC の活動内容を報告>                                |
| 99.3.18       | 国際防災の 10 年事務局長フィリップ・ブレ氏来訪   |
| 99.5~7 月      | 阪神・淡路大震災関連データベース、防災研修データベース、防災体制データベース、国別防災総合情報等をインターネット上に順次発信                                  |
| 99.7.5~9      | 国連防災の 10 年プログラム・フォーラム (ジュネーブ) 出席<br><サカセストーリーとして、ADRC の開設・活動を説明、セッション「災害予測等のための情報伝達技術」をコーディネート> |
| 99.7.12~7.16  | スイス政府、フランス政府、国連人道問題調整事務所、ベルギー・アントワープ大学災害疫学研究所(ブリュッセル)等調査  |
| 99.7.23~      | メンバー国から順次研究員受入れ開始<br><韓国、ベトナム、ネパール、インドネシア>  |
| 99.9.23       | パプアニューギニア政府とジョイントプロジェクト開始<br><津波防災普及啓発>   |

|               |  |
|---------------|--|
| 99.9.29~10.4  | 台湾緊急支援チームに参加   |
| 99.11.5       | ルベンカトリック大学災害疫学研究所と「防災情報収集協力についての覚書」締結                                |
| 99.12.6~8     | 第2回 ADRC 専門家会議開催 会場：IHD ビル<br><参加者数：24ヶ国4機関36名>                      |
| 2000.1.13     | 世界銀行・パリ会議に出席   |
| 2000.2.7      | 国連人道問題調整事務所(OCHA)アジアユニット開所式開催  |
| 00.4.26-29    | 第3回 GDIN 国際会合(アコガ)に参加<ADRC の活動、VENEN システムを報告>                        |
| 00.5.3-4      | アルメニア共和国 NSSP 訪問<ADRC への新規加盟についての意向聴取等>                              |
| 2000.8.31-9.4 | 防災フェア2000 参加 ブース出展 会場：そごう神戸店   |
| 00.           | GDIN ハワイ   |
| 00.10.24-27   | SAGIP2000(マニラ)参加<ADRC のメンバー国の防災情報共有について報告>                           |
| 00.12.5-7     | 第3回 ADRC 専門家会議開催 会場：IHD ビル<br><参加者数：26ヶ国6機関40名>                      |
| 00.12.5-7     | 第3回 ADRC 専門家会議開催 会場：IHD ビル<br><参加者数：26ヶ国6機関40名>                      |
| 00.12.8       | 国際防災戦略アジア地域会合 会場：三田共用会議所   |
| 01.01.        | 防災技術展出展 会場：神戸国際展示場   |
| 01.02.05-06   | 世界防災会議2001 共催 会場：淡路夢舞台国際会議場  |
| 01.03.20-23   | GDIN2001(キャンベラ)参加 <防災統一番号を提案し採択される>                                  |
| 01.04.14-27   | 日本政府インド西部地震調査参加<インドグジャラート州>  |
| 01.06.04-08   | ADRC・インド政府共催 インド多国間ミッション<ADRC メンバー国によるインド西部地震被災地調査>                  |
| 01.06.18-23   | WHO 西太平洋事務所主催 防災国際会議出席<WHO Health Mapper と ADRC VENTEN との共同プロジェクト開始> |
| 01.06.28-29   | GDIN アジアパシフィック事務局会議出席(バンコク)  |
| 01.06.28      | ADPC(タイ バンコク)と事業協力についての覚書交換  |
| 01.07.04-06   | OCHA・ADRC 共催 防災会議(カトマンズ)を開催  |
| 01.08.16      | OCHA リリーフウェブ開所式  |
| 01.08.16      | 国連大島事務次長来所   |
| 01.08.28      | フィリピン アンジェロ トーマス レイエス国防大臣兼国家防災会議議長来訪                                 |
| 01.08.27      | GIS 国際会議開催(神戸)   |
| 01.10.04-05   | ISDR 会議出席<ジュネーブ>   |
| 01.10.06-20   | シンガポール市民防衛庁と共催で都市救援トレーニングを開催し、メンバー国の担当者を研修                           |
| 01.11.06      | 韓国第1回国際防災協力セミナー出席(ソウル)<西川副所長基調講演>                                    |

|                 |   |
|-----------------|---|
| 01.11.13-15     | JUSTSAP (HAWAII 島) に出席  |
| 01.11.27-29     | World Summit on Sustainable Development(カンボジア)に出席<持続可能な発展に防災対策が不可欠であることを最終ステートメントに盛り込む> |
| 01.11.29-30     | 台風委員会(ハワイ)出席<台風情報発信に ADRC のウェブの活用を提案し採択される>   |
| 01.12.01-17     | フィリピン国立地震火山研究所と共催で教育関係者防災トレーニングを開催(メンバー国の担当者を研修)  |
| 2002.01.09      | インド パワール国家防災会議副議長(国務大臣)来訪   |
| 2002.01.17      | 村井防災担当国務大臣来訪  |
| 2002.01.22-23   | 第4回アジア防災センター国際会議開催(デリー)22カ国10機関80名参加  |
| 2002.01.24      | ISDR アジア会合開催(デリー)22カ国10機関80名参加  |
| 2002.01.21-2.22 | JICA 防災管理者セミナー開催<12カ国14名の研修生に約1ヶ月間防災研修を実施>  |
| 2002.02.05-07   | OCHA ジュネーブシンポジウム出席<ADRC 活動および災害統一番号プロジェクト紹介>  |
| 2002.02.14-15   | 第6回震災対策技術展に出展(神戸国際会議場)  |
| 2002.02.20-22   | アジア地域災害 NGO シンポジウム開催(OCHA 神戸、ADRC 共催)<16カ国のNGO、国連諸機関、内閣府、外務省、兵庫県等約80名が参加>               |
| 2002.02.21      | 国連国際防災戦略(ISDR)事務局長 サルバノ ブリセーニョ氏来訪   |
| 2002.02.24-28   | ニューヨークワールドトレードセンター日本政府調査団に参加  |
| 2002.02.27-3.1  | カザフスタン 国際防災エキスポに参加<アジア防災センターの活動およびインターネット防災展の紹介>  |
| 2002.03.12-13   | 世界気象機構・ESCAP 共催 サイクロン委員会出席<ミャンマー>   |
| 2002.3.15       | NASDA・内閣府・ADRC 共催 衛星防災活用実験  |